



## 2019. 8. 9 平和についてしっかりと考える日 戦後74年目の大村中学校「平和集会」を開催しました。



戦後74年が経った今、日本の戦争や被爆体験者が誰もいない時代をもうすぐ迎えようとしています。そのような中、実際に戦争を体験したことのない私たちが、その戦争の非人間性、そして、その残酷さをしっかりと学ぶ中で、「平和」を願ってできることを真剣に考え、具体的な実行に移していく。そのことで、現在の「平和」を守り続けることは、とても大切な営みだと思えます。

それは、今この瞬間もこの地球上の各地で、戦争や紛争が起きており、尊い命がたくさん奪われているからです。決して、「平和」とは永遠に続くものではありません。「平和」とは、様々な対立や意見の相違を乗り越え、みんなで作き上げ、守り続けていくものだと考えます。

戦後74回目8月9日。これからの時代を生き、これからの日本、そしてグローバル社会の形成者となる生徒達に、「平和集会」で校長として話をさせていただいたことを、一部抜粋して掲載させていただきました。ご一読ください。

### 平和集会講話

74年前の8月9日、真夏の太陽が照りつける屋前。日本の戦況はより厳しさを増す中ではありましたが、いつも通りの一日が始まり、戦火の中でもたくましく生きていく人々の姿、そして生活がそこにはあったはずです。

生徒のみなさん、あなたや大切な家族がそこにいたらと想像しながら聞いてください。

午前11時2分、米軍機であるB29「ボックスカー」が投下した一発の原子爆弾「ファットマン」が、長崎市松山町の上空約500mで炸裂しました。目もくらむ一瞬の閃光。100万度を超える火の玉から、長崎の街に強烈な放射線と熱線、そして猛烈な爆風が襲いかかりました。立ち昇ったキノコ雲の下で何の罪もない多くの命が奪われ、町は一瞬にして破壊されました。

「熱いよう！痛いよう！」。つぶれた家の下からは母親に助けを求め叫ぶ子どもの声。「水を、水をください！」。息絶え絶えのうめき声、うなり声。あとには、黒焦げの亡骸(なきがら)、全身が焼けただれた人、内臓が飛び出した人、無数のガラス片が体に刺さり苦しむ人があふれ、長崎は地獄と化しました。

このように、戦争末期の1945年8月6日に広島、そして、9日には長崎に、世界で初めて原子爆弾が投下され、一瞬のうちに広島では約20万人、長崎では約10万人が亡くなりました。そして、8月15日には日本が無条件降伏して戦争が終わりましたが、この戦争で、日本全体では約310万人の尊い命が失われました。

また、この戦争が終わって74年になりますが、広島や長崎で被爆した人の中には、今もなお、その後遺症に苦しんでいる人がいます。

戦争は、最も人権を踏みこむ行為です。今は平和で、食べるものや着るものに不自由しない豊かな時代ですから、この戦争当時の苦しく厳しい時代のことを、なかなか感じ取ることは難しいことかもしれません。しかし、だからこそ、平和な社会に生きる私たち自身が、負の遺産である過去の「戦争」の歴史、そして「原爆」から学び、現在、そして未来へつなげる平和や命の大切さについての学習活動に、自分の問題として取り組み、真剣に考えることはとても大切なことであると強く感じています。(中略)

みなさん方が形成者となるこれからの日本、そしてグローバル社会の中で、あなた自身が、そしてあなたの愛する人が、あなたの家族が生活していくのです。

平和とは、自然と笑顔になれること。平和とは、人も自分も幸せであること。平和とは、夢や希望が持てる未来があること。8月9日は、この長崎県に生まれた私たちが、「平和」についてしっかりと考える日です。

74年前のこの長崎で起きた事実を、被爆者の思いを、そして本日の「大村中学校平和集会」で学び、心に感じたことをもとに、これからの時代を生きる人類の一人として、「平和」についてしっかりと考え、その実現に向けて力を尽くしてくれるものと期待しています。

生徒のみなさんの一人一人の「平和」を思う気持ちは、決して無力ではないこと、そしてこの世界を「平和」に導く光となることを固く信じながら、平和集会における校長講話とさせていただきます。

令和元年8月9日

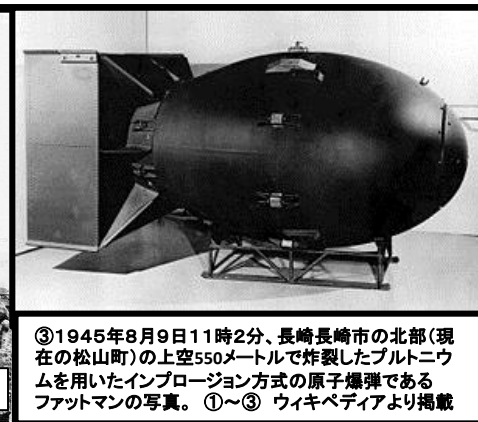
大村市立大村中学校 校長 松崎大樹



①長崎市に投下された原爆のキノコ雲



②破壊された浦上天主堂(1946年1月7日撮影)



③1945年8月9日11時2分、長崎長崎市の北部(現在の松山町)の上空550メートルで炸裂したブルトニウムを用いたインブロージョン方式の原子爆弾であるファットマンの写真。①～③ ウィキペディアより掲載



# 今、私達は「平和」についてこのように考えています…。

～平和講和「松原の救護列車を伝える会」の皆様のご講演感想から(一部を抜粋)～



講師の久保芳子さんの話を聞きました。当時の様子や自分が思っていたことなどを、詳しく教えていただきました。その話の中で、私が一番心に残っていることは、戦争の時のことを今でもしっかりと覚えておられたことです。中山さんがインタビューした時、すぐに答えられていました。自分が怖い思いをすと過去の記憶は消えないんだなと思っていました。これからは、多くの人の命が奪われず、ケンカや争いのない平和な世界になってほしいです。そうすれば、みんなが安心して暮らすことができたり、苦しい思いをしなくて済むからです。そのような世界にするためには、一人一人が小さなことで争わず、戦争の恐ろしさや悲しさ、苦しさなどを世界中の人に広めれば、戦争はなくなっていくと思います。今、戦争がなくなっても、また起こるかもしれないので、みんながやさしくて、ゆずり合うような人たちになっていきたいです。

1年 立川 茜

朗読劇ではお話されている方の声がとてもリアルで、その場の様子がうつすらと思ひ浮かびました。思わず耳をふさぎたくなるような生々しい場面もありましたが、福地勝美さんから衛生兵の看護に対する必死で一生懸命な思いがひしひしと伝わってきました。久保さんの講話では、朗読劇では語られなかった大村市の人々の様子が分かりました。どんな生活をしていいたか知るにあたり、当時8歳だった久保さんは、よく耐えることができたなと思いました。子どもなのに衝撃的な遺体や人々の姿を見るのはとても辛かったことでしょう。戦争反対と言ったら処罰される時代はとてもおかしいです。私は特に印象的だったのは、特攻隊の方のお話です。特攻隊の方は自分が死ぬと分かっています。自分が死ぬことを分かっているにも明るく振る舞うのはとても勇気があって凄いなと思います。私は長崎市の様子だけではなく、大村の様子も胸に刻んでこれからの生活に活かしていきたいです。

2年 立道 絢音

私は、今日の講話を聞いて、戦争の悲惨さを改めて感じたのと同時に、当時の方々は戦争の厳しい日常の中で、お互いの命を大切に助け合っていたのだと知りました。私は、今まで戦争が悲惨だというイメージをもとに命を軽く扱っていたのではないかと勝手に思いこんでいました。でも、被爆し、大ケガを負った見ず知らずの人々を助けた松原の方々の話を聞き、そんなことはないと思いました。きっと当時の方々も人が死ねば心を痛め、ケガをすれば心配になる。もしかしたら、今よりも、人の苦しみを分かち合おうとしていたのかもしれない。私は、戦争を経験したことがありません。しかし、長崎に生まれた私達は、毎年8月になると平和について考えます。そして、長崎に生まれた私達は、もっと深く平和について考えなければならぬと思います。私達が、あの日を想像するのは難しいかもしれませんが。想像した苦しみが現実とは違っているかもしれません。それでも、その痛みを理解したいと思うことは大切だと思います。毎年、8月になると平和について考えることは、とても良い文化だと思います。あの日の苦しみを想像し、感じた痛みをきっかけに、私達から変わり、伝えていかなければならないと思います。そして、私はたくさんの人々を助けた松原の方々のように人の痛みを分かち合える人になりたいです。

3年 道頭 依央

長崎に落とされた原爆のキノコ雲が松原町から見たというのを知って、そのくらい凄いな爆弾だったんだなと思いました。原爆が凄く強くて、もの凄く被害をもたらしたのは知っていたのですが、今日聞いた話でさらにそう思いました。頭に木が刺さっていた女の子の話は初めて聞いてかわいそうだなと思いました。松原小学校で治療をしたところの朗読では、触ただけで皮膚がはがれちゃうくらいみんな火傷がひどい、目の鼻の穴だけ少しあいていて他は全部皮膚が落ちてしまっている人もいたと聞いて、原爆の熱は凄く熱かったんだろうなと思いました。「水がほしい、水がほしい。」と言っているところでは凄く泣きそうになってしまいました。とてもかわいそうで、聞いていて悲しくて、もう2度と戦争はしたくないと思いました。毎年毎年原爆や戦争や空襲の授業をしていただけ、今回の講話では、今まで習ったことをもう一回学んだような気がしました。

1年 塩釜 伶美

講話では、久保さんという方が原爆の時の様子について話してくれました。中でも印象に残ったのは次の2つです。1つ目は、昔の兵隊達が空襲警報が鳴る度に歌を歌ったりして楽しませてくれたということです。兵隊たちにもそれぞれ家族がいて、戦いに行くのは心のどこかでは誰もが嫌なはずなのに、無理に気持ちを作って戦争に行った人もいただろうと思うと、とても辛い気持ちになりました。2つ目は、幼い頃の久保さんがお母さんと一緒にいて、速く上がるキノコ雲を見て「きれいだ」と言ったところ。そのキノコ雲の下では何人も人が死んでいるのに、遠くの人々は何も知らずにきれいと言ったり、ぼんやり見つめていたりする。戦争の恐ろしさが表れていました。当時、原爆が落とされた場所にはいた人は、焼けた町の中を走り回ったり、大切な家族を失ったりしていたことを考えると、心が痛くなりました。私達、2年生は修学旅行で同じように原爆を落とされた広島に行き、原爆資料館などで平和学習を行います。今日、「松原の救護列車を伝える会」や久保さんからの伝えられた話を振り返り、平和学習に活かしていきたいです。

2年 伊藤 百香

今日の平和講話を受けてまず感じたことは、自分たちが想像する以上の当時の景色です。今の長崎は殺人事件や悲しくなることは起きていません。でも、その当時は、誰かの泣き声やうめき声、叫び声など耳をふさぎたくなるような状況があったんだということを感じました。また、自分の血がつながっている家族もその当時その場所にはいたら、どんな気持ちだったのかなあとも思いました。今、日本は戦争をしていませんが、いつ始まってもおかしくない現状にあると思います。だから、戦争という誰も得にもならないものを実現させないために、僕はまずこの大村からどんどん平和を発信していかなければいけないなあと思います。

3年 山添 慈英

## おめでとう！ 吹奏楽部 九州大会出場決定！

長崎県吹奏楽コンクール県央大会を金賞で勝ち進んだ本校吹奏楽部は、8月4日(日)長崎ブリックホールで開催された県大会において見事最優秀賞を受賞し、8月24日(土)に熊本市で開催される第64回九州吹奏楽コンクールへの出場を決定させました。なんと5年連続の快挙です！

## 長崎県中学校総合体育大会 結果報告 131名の選手のみなさん お疲れ様でした！

- 男子サッカー部 1回戦 対早岐中 2-1勝  
2回戦 対海星中 0-3惜敗
- 野球部 1回戦 対有明中 0-1惜敗
- 男子バレー部(セットカウント)  
1回戦 対諫高附属中 0-2惜敗
- 男子バスケット部 1回戦 対島原二中 57-62惜敗
- 男子バドミントン部(セットカウント)  
団体 1回戦 対西彼中 3-0勝ち  
2回戦 対東長崎中 2-0惜敗  
男子ダブルス 山内・高柳ペア  
1回戦 対小浜中 2-0勝  
2回戦 対長崎東中 2-1勝  
3回戦 対奈留中 0-2惜敗
- 女子ソフトボール部 1回戦 対郷ノ浦中 2-3惜敗
- 水泳部 増丸 50m自由形 第3位 100m自由形 第3位
- 陸上部 増丸 1年女子800m 第2位→九州大会出場

- 女子バドミントン部(セットカウント)  
女子シングルス 川崎 対時津中 0-2惜敗  
酒井 対琴海中 0-2惜敗
  - 女子ソフトテニス部(セットカウント)  
吉田・澁谷ペア 対祇園中 0-4惜敗
  - 空手道 男子組手 荒木 対志佐中 1-2惜敗
  - 新体操 矢田 総合15位
  - 硬式テニス(セットカウント)  
男子シングルス 矢田 対長大附属 1-6惜敗  
女子ダブルス 山内・宮田ペア 対佐世保北中 2-6惜敗
- ※水泳部・陸上部については上位入賞者のみを記載させていただきました。御了承ください。



## おめでとう！ 増丸奈央さん 九州大会 1年女子800m 第6位

第41回九州中學陸上競技大会が8月7日(水)8日(木)2日間、熊本県民総合運動公園陸上競技場で開催され、本校から長崎県代表として出場した1年増丸奈央さんが見事2:22:56のタイムで第6位に入賞しました。